

米国のイノベーション地区  
ーサウス・ポストン・ウォーターフロントの事例ー

横浜市米州事務所 谷澤 寿和

## 1. 要点

- ・ イノベーション地区は、コンパクトなエリアに集積する、大学、研究機関、企業、スタートアップ、アクセラレーターなどの主体間による活発な相互作用によって特徴づけられており、近年、世界の多くの都市において、イノベーション地区の形成が目指されている。
- ・ 本レポートでは、イノベーション地区についての先行研究等を基に、イノベーション地区の類型、構成要素、成功要因、米国におけるイノベーション地区の分布を整理する。
- ・ また、横浜市の都心臨海部における今後のイノベーション地区としての可能性を念頭に、比較事例として、イノベーション地区の成功事例である、サウス・ポストン・ウォーターフロント（シーポート地区）を取り上げ、同地区の発展のプロセスと経験から得られる示唆と課題を検討する。

## 2. イノベーション地区とは

## (1) イノベーション地区の類型

ブルッキングス研究所が実施している、大都市圏のリーダーの政策形成を支援する「メトロポリタン政策プログラム (Metropolitan Policy Program)」において発表された、Bruce KatzとJulie Wagnerの”*The Rise of Innovation Districts: A New Geography of Innovation in America*”では、過去50年にわたって、イノベーションが起こる地域は、シリコンバレーのような車による移動を伴う郊外の回廊で主に形成されてきたが、コンパクトなエリアの中に、最先端のアンカー機関や企業が集積し、スタートアップ、インキュベーター、アクセラレーターと繋がっている「イノベーション地区」と呼ばれる、新たな都市型のモデルが生まれていることを指摘している。

イノベーション地区の成功は、集積そのものよりも、地区を構成する個人、企業、機関の関係性の強さに起因しており (Hanna 2016<sup>1</sup>)、イノベーション地区のこれらの特徴は、オープンイノベーション志向の増大が、企業の立地や建物のデザイン (研究所から複合利用まで) を変えていることとも深く関係している (Katz and Wagner 2014<sup>2</sup>)。

KatzとWagnerは、イノベーション地区を3つの類型に分類している。

## ① アンカー機関型 (Anchor Plus Model)

複合的に開発された中心市街地やダウントウンに多く見られ、大学や研究機関など少なくとも一つの核となる機関が存在し、その周辺に関連企業やスタートアップが集積しているモデル。

## ② 再活性化型 (Re-imagined Urban Areas Model)

かつての工業地帯、倉庫街で、歴史的なウォーターフロント沿いの再開発・リノベーション地区によく見られ、中心市街地に近く、研究機関やハブ企業等へのアクセスに優れているモデル。

## ③ サイエンス・パーク型 (Urbanized Science Park Model)

もともと郊外のスプロール化されたエリアの都市化が進み、パーク内への企業

<sup>1</sup> <https://www.centreforlondon.org/publication/innovation-districts/>

<sup>2</sup> <https://www.brookings.edu/wp-content/.../InnovationDistricts1.pdf>

や商業施設等が集中しているモデル。

(2) 横浜市におけるイノベーション地区

現在、横浜市に「イノベーション地区」として世界的に認知されているような特定の地区があるわけではないが、世界の主要都市でもイノベーション地区の形成が志向されているように、米国におけるイノベーション地区の事例は、横浜市が今後いかに成長していくかの参考になり得る。

市内には、それぞれ特徴を持った9つのビジネス地区があり、このうち、みなとみらい21地区には、オフィス、商業、文化など多様な機能が集積し、大企業の本社、R&D機能の集積が進んでいる。隣接する関内地区周辺には、アーティストやクリエイターが集まり、スタートアップの集積も進みつつある<sup>3</sup>。そこで、都心臨海部、特に、みなとみらい21地区と関内地区のイノベーション地区としての可能性<sup>4</sup>を念頭に置き、米国の先行事例の比較対象としたい。



【出所:内閣府「対日直接投資推進会議(第6回)会議資料 平成30年」横浜市提出資料】

(3) 3種類の適用可能性

「①アンカー機関型」に分類されるボストンのケンダル地区では、マサチューセッツ工科大学(MIT)がハブ機能を発揮している。「③サイエンス・パーク型」の代表例である、リサーチ・トライアングル・パークは、デューク大学、ノースカロライナ州立大学、ノースカロライナ大学チャペルヒル校を結ぶ三角形のエリアを形成している。

イノベーション地区の形成において、イノベーション・ハブとなる大学の存在は大き

<sup>3</sup> entrepedia のデータによると、市内18区の中で、中区に所在するスタートアップ企業数が最も多い。  
<sup>4</sup> 内閣府 対日投資推進会議(第6回)平成30年度にて、横浜市は、横浜「みなとみらい」&「関内」新たなイノベーション・エリアへと題する資料を提出している。  
[www.invest-japan.go.jp/committee/council\\_06/shiryo\\_03.pdf](http://www.invest-japan.go.jp/committee/council_06/shiryo_03.pdf)

い。一方、日米における大学発ベンチャーの設立数<sup>5</sup>や産学連携の規模<sup>6</sup>の差を見ると、大学を核とした米国のイノベーション地区の事例を今すぐ横浜に当てはめようとするのは難しいかもしれない。

そこで、ここでは、ウォーターフロントの再開発地区に多くみられ、必ずしも大学がイノベーション・ハブとなっているわけではない<sup>7</sup>「②再活性化型」に着目し、米国の「②再活性化型」の成功事例を取り上げることとする。

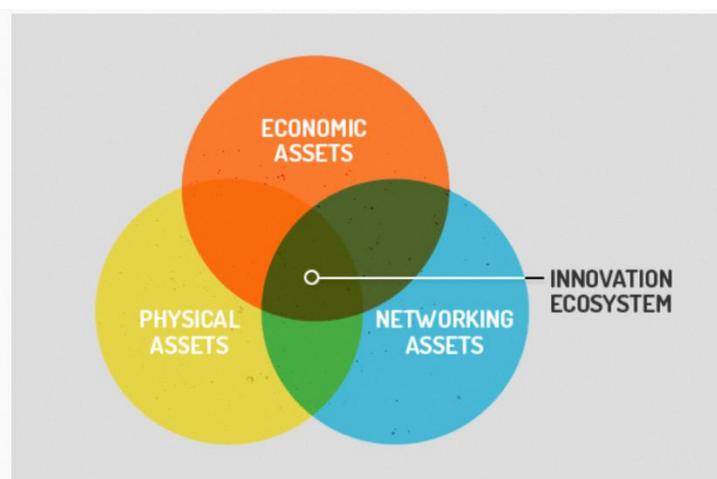
まずは、特定の事例の検証の前に、何がイノベーション地区を構成しているのか、イノベーション地区を成功させるにはどのような要因が必要なのか、について先行研究を紹介する。

### 3. イノベーション地区の構成要素

Katz と Wagner は、イノベーション地区の枠組みを、3つの型のアセット（(1)エコノミック・アセット、(2)フィジカル・アセット、(3)ネットワーキング・アセット）の相互作用によって説明している。

- (1) エコノミック・アセット：イノベティブな環境を育て加速させる企業や機関等
- (2) フィジカル・アセット：地区内の接続性や連携を強める公共・民間空間
- (3) ネットワーキング・アセット：主体（個人・企業・機関）間の関係

また、これら3つのアセットの他に重要な要素として、イノベーション地区は、既に存在している強みの上につくられるということも指摘している。



出所：Katz and Wagner (2014) “The Rise of Innovation Districts”

さらに、各アセットは以下のように分解することが出来る。

- (1) エコノミック・アセット
  - ① イノベーション・ドライバー

<sup>5</sup> 2016年に設立した大学発ベンチャー数：米国1,024社（AUTM U.S. Licensing Activity Survey FY2014）、日本157社（経済産業省「平成29年度産業技術調査事業大学発ベンチャー・研究シーズ実態等調査報告書」）

<sup>6</sup> 例えば大学のライセンス収入を比較すると、米国2,562百万ドル、日本45.3百万ドル（UNITT 一般社団法人 大学技術移転協議会「大学技術移転サーベイ 2017年度版」）

<sup>7</sup> 後述するサウス・ボストン・ウォーターフロント地区には、アンカー大学／研究機関は存在しない。

- 研究・医療機関、大学、大企業、SMEs、スタートアップ
- ② イノベーション・カルチャー  
インキュベーター、アクセラレーター、概念実証（PoC）センター、技術移転オフィス、シェアワーキングスペース、職業訓練施設、コミュニティカレッジ
  - ③ 近隣のビルディング・アメニティ  
医療機関、食料品店、レストラン、カフェ、小規模ホテル、小売り
- (2) フィジカル・アセット
- ① 公共分野  
公園、広場、街路、WiFi等、物理的にもデジタルでもつながっている公共空間
  - ② 民間分野  
スタートアップ向けオフィス、ラボ、マイクロユニット住宅など
  - ③ 接続性  
各建物間の（物理的、デジタルな）接続性の良さ
- (3) ネットワーキング・アセット
- ① 強固な結びつき  
同一セクター内における強固な関係（勉強会、ワークショップ、トレーニングセッション、特定のクラスター内の会議等）
  - ② 緩やかな結びつき  
新規、セクター間の緩やかな関係（ネットワーキング朝食会、イノベーションセンター、ハッカソン等）

#### 4. クラスター／イノベーション地区の成功要因

ブルッキングス研究所のBailyとMontalbanoが発表した、“*Clusters and Innovation Districts: Lessons from the United States Experience*”では、米国における主要な産業クラスター及びイノベーション地区を事例に、8つの成功要因を提示するとともに、米国内外の事例を基にクラスター形成の4つの問題点が提示されている。

##### 【成功要因】

- (1) コア・コンピテンシー（競争力の源泉があること）
- (2) 人（強力なリーダーシップ、高レベルの研究者、熟練労働者がいること）
- (3) 文化（アイデア共有を支援するビジネス／研究文化、人材が集まる生活様式があること）
- (4) 経営能力（イノベティブなアイデアだけでなく、企業を運営するスキルを獲得できること）
- (5) 成熟した需要（製品・サービスを供給する市場が存在すること）
- (6) 資金アクセス（スタートアップへの資金支援、オフィス、ラボなどのインフラ資金があること）
- (7) インフラ供給（フィジカル・アセットや公共アメニティ（空港、道路、住宅供給等）があること）
- (8) 規制環境（許認可等の手続きがスムーズであること）

##### 【問題点】

- (1) 無用の産物（意思決定者や政府リーダーの名声のための決定）
- (2) 企業がついてこないイニシアティブ（ビジネス関係者や研究者の支持が得られていない）
- (3) 無能力（政策リーダー、実行者の能力欠如）
- (4) 囚われ（政府アクターの自己利益、癒着、情実主義）

以下からは、米国における主要なイノベーション地区の中で、横浜市の比較・参考事例になり得る地区の一つとして、サウス・ポストン・ウォーターフロント（シーポート地区）を取り上げ、発展のプロセスと主要な出来事から得られる示唆と課題を整理する。

## 5. 米国における主なイノベーション地区

Katz と Wagner が例示している3つの類型に該当するイノベーション地区のロケーションをプロットすると以下ようになる。



- ① ケンダルスクエア（ポストン）
- ② サウス・ポストン・ウォーターフロント（ポストン）
- ③ コーネル・テック・ルーズベルト島キャンパス（ニューヨーク）
- ④ ブルックリン・ネイビーヤード（ニューヨーク）
- ⑤ ユニバーシティ・シティ（フィラデルフィア）
- ⑥ バージニア大学 リサーチ・パーク（シャーロットビル）
- ⑦ リサーチ・トライアングル・パーク（ローリー～ダラム）
- ⑧ ミッドタウン・デトロイト（デトロイト）
- ⑨ オークランド（ピッツバーグ）
- ⑩ ミッドタウン・アトランタ（アトランタ）
- ⑪ ユニバーシティ・リサーチ・パーク（マディソンーウィスコンシン）
- ⑫ コーテックス・イノベーション・コミュニティ（セントルイス）
- ⑬ テキサス・メディカル・センター（ヒューストン）
- ⑭ アリゾナ大学テックパーク（ツーソン）
- ⑮ サウス・レイク・ユニオン（シアトル）
- ⑯ ミッションベイ（サンフランシスコ）
- ⑰ ハンターズ・ポイント（サンフランシスコ）

Greenwood と Steenhoven<sup>8</sup>が整理した世界のイノベーション地区の比較表を基に、Katz と Wagner の例示と一致するイノベーション地区を抜粋すると次のようになる（上記で下線したイノベーション地区を抜粋）。

<sup>8</sup> <https://www.marsdd.com/.../Rise-of-the-Hub-MaRS-March2017.pdf>

セクター  
 バイオサイエンス クリーンテック  
 IGT フィンテック その他テック

イノベーション地区	類型	都市	セクター	大学	病院	研究機関	大企業	インキュベーター	アクセラレーター
ケンダルスクエア	アンカー機関型	ボストン	バイオ IGT	●	●	●	●	●	●
サウス・ボストン・ウォーターフロント	再活性化型	ボストン	バイオ クリーンテック IGT	●		●	●	●	●
コーネル・テック・ルーズベルト島キャンパス	再活性化型	ニューヨーク	IGT (P)	●		●	●	●	
ユニバーシティシティ	アンカー機関型	フィラデルフィア	バイオ クリーンテック IGT	●	●	●	●	●	●
リサーチトライアングルパーク	サイエンス・パーク型	ローリー・ダラム	バイオ クリーンテック IGT	●	●	●	●	●	●
ミッドタウン・イノベーション地区	アンカー機関型	アトランタ	バイオ S IGT (P)	●	●	●	●	●	●
サウス・レイク・ユニオン	再活性化型	シアトル	バイオ (P)	●	●	●	●	●	●
ミッションベイ	再活性化型	サンフランシスコ	バイオ (P) IGT	●	●	●	●	●	●

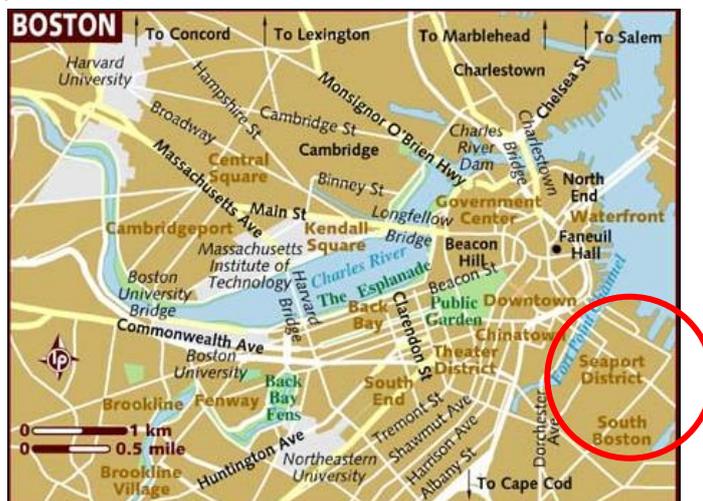
【出所：Greenwood and van den Steenhoven(2017)“THE RISE OF THE HUB”の一覧表を編集】

これらの整理から、類型に関わらず、各地区で、イノベーション・ドライバーとなる大学、病院、研究機関、大企業、及び、イノベーション・カルチベーターであるインキュベーター、アクセラレーターが概ね備わっていることが分かる。また、一つの地区に単一のセクターではなく、複数のセクターが存在しており、多くの地区でバイオサイエンスとIGTが主要セクターとなっていることが分かる。

次に、上記事例の中から、「再活性化型」である、サウス・ボストン・ウォーターフロント（シーポート地区）を横浜市と比較事例として取り上げる。

#### 6. サウス・ボストン・ウォーターフロント（シーポート地区）

THE INTERSECTOR PROJECT が発表したケーススタディ “*THE DEVELOPMENT OF BOSTON’ S INNOVATION DISTRICT: A Case Study of Cross-Sector Collaboration and Public Entrepreneurship*” によると、2010年にThomas Menino 市長（当時）が施政方針演説で、約1,000エーカー（約400ha、約4km<sup>2</sup>）のイノベーション地区のビジョンを発表して以来、サウス・ボストン・ウォーターフロントは、2015年までに、同地区内で5,000以上の新規雇用、200以上のスタートアップが創出され、イノベーション地区の成功事例として広く取り上げられている。



(1) 着手時点でのみなとみらい21地区・関内地区との類似点

イノベーション地区形成に着手した2010年以前における同地区のまちづくりの状況<sup>9</sup>は、再開発前の利用のされ方、ウォーターフロントを構成する主要な施設、インフラ、機能など、都心臨海部といくつかの類似点が見られる。

	サウス・ボストン・ウォーターフロント	みなとみらい21地区+関内地区
面積	約400ha	約250ha
かつては	鉄道ヤード、港湾関連製造業	埠頭、鉄道ヤード、造船所(MM21)
交通インフラ	Big Dig Project(高架高速道路の地下化による渋滞緩和、パブリックスペース創出、ローガン国際空港へのアクセス改善(2007年完了))	・高速道路網の建設(地下化) ・羽田空港再国際化(2010年)
複合開発(オフィス、商業施設、ホテル、マンション)	The Fallon Company: One Marina Park Drive, 11 Fan Pier Boulevard, 50 Northern Avenue, 100 Northern Avenue, Twenty Two Liberty	三菱地所:ランドマークタワー、クイーンズスクエア、M.M.TOWERS
MICE	ボストン・コンベンション&エキシビジョンセンター(BCEC) (2004年開業)	パシフィコ横浜 (1991年会議センター・ホテル・展示ホール(I期)、1994年国立大ホール、2001年展示ホール(II期)・アネックスホール開業)
文化芸術	ICAボストン(Institute of Contemporary Art) (2006年開業) アーティストの集積、Fort Point Arts Community (FPAC)	横浜美術館(1989年開業)  アーティスト、クリエイターの集積、BankART1929

(2) イノベーション地区のビジョン

THE INTERSECTOR PROJECT は Thomas Menino 市長のビジョンの4つの特徴を指摘している。

- ① 特定の産業ではなく、あらゆる種類の産業に開かれた地区
- ② 「仕事、生活、遊び」をモットーに、イノベティブな起業家の集積
- ③ 確定的な計画ではなく、柔軟で実験的な試み
- ④ 大学や研究機関ではなく、市主導によるイノベーション地区形成

(3) 成功要因

Baily と Montalbano は、サウス・ボストン・ウォーターフロントの成功要因を次のように整理している。

成功要因	サウス・ボストン・ウォーターフロント
人: 強力なリーダーシップ	Thomas Menino 前市長によるイニシアティブ - 初期段階でのアクセラレーター“ <b>Mass Challenge</b> ”の誘致 - 大手創業企業(パーテックス社)の誘致
人: 人材供給	起業家育成に特化したバブソン大学の出先施設が同地区に開設 MITやハーバードなど大ボストン都市圏の主要大学の人材供給
文化: アイデア共有	ボストン市が公的なイノベーションセンター“ <b>District Hall</b> ”を開設
経営能力	クラスター形成の初期段階において“ <b>Mass Challenge</b> ”が起業家育成に重要な役割
資金アクセス	ベンチャーキャピタル投資の盛んな、ボストン・ダウンタウン、ケンブリッジでの資金調達
インフラ供給	高架高速道路の地下化(Big Dig Project)による接続性改善 シーポート地区インフラ改善への資金投入

<sup>9</sup> 図のサウス・ボストン・ウォーターフロントの状況は、主に THE INTERSECTOR PROJECT 及び GOODMAN WILLIAMS GROUP “Innovation District Case Studies”を基に作成

これらの成功要因の中で、特にボストン市のイニシアティブにより達成した、“Mass Challenge”の誘致と“District Hall”の開設について紹介する。

#### (4) 世界最大規模アクセラレーター”Mass Challenge”の誘致

ボストン市は、市長のビジョンを実現するため、同地区への企業誘致活動を行い、初期段階における大きな成果が、世界最大規模のアクセラレーターである“Mass Challenge”の誘致であったと言われており、当時110の企業と200のメンターを率いていたMass Challengeの誘致には以下のようなプロセスがあった（THE INTERSECTOR PROJECT 2016）。

- ① テック系スタートアップコミュニティから、Mass Challengeの拡張計画の情報入手
- ② ボストン市からMass Challengeへのトップセールス
- ③ 不動産デベロッパーからMass Challengeへ一年間の無料リース提案

Mass Challengeは、誘致一年目に、100以上のイベントを主催し、数千人が参加した（THE INTERSECTOR PROJECT）。



（The Innovation and Design Building 6FがMass Challenge。The Innovation and Design Buildingは、1918年に陸軍基地の水辺倉庫として建てられた建物を改装し活用）

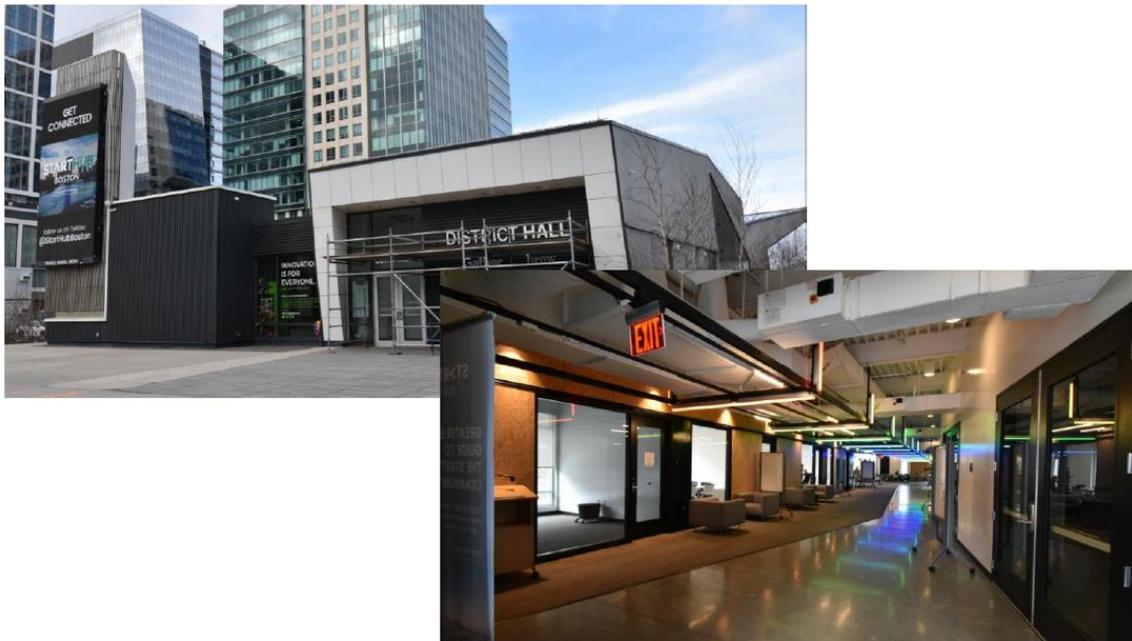
#### (5) 公的イノベーションセンター”District Hall”の開設

District Hallは、ボストン市による依頼で、CIC（ケンブリッジ・イノベーション・センター）の非営利の姉妹組織である「ベンチャー・カフェ」が企画・運営している、公的なコミュニティスペースである。

2014年には、562のイベント（ハッカソン、トレーニングセッション、スタートアップネットワークミーティング等）を開催し、25,000人以上がDistrict Hallを活用した（THE INTERSECTOR PROJECT 2016）。

多くのイベントが無料で開放されており、起業家人材、スタートアップ、投資家、支援

団体等のネットワーク構築が進んでいる<sup>10</sup>。



(District Hall)

## 7. 示唆と課題

### (1) 示唆

サウス・ボストン・ウォーターフロントの成功は、イノベーション地区を構成する3つアセットのうち、同地区に必要なアセットの補強に成功した結果のように見える。

特に、イノベーション・カルチベーターとなる力のあるアクセラレーターの誘致、そして、District Hallの機能に代表される、ネットワーキング・アセットの強化が特徴的であった。

サウス・ボストン・ウォーターフロントに限らず、世界のイノベーション地区の事例を見ても、世界的なアクセラレーターの存在が確認できることから、イノベーション地区を成功させる一つの要素として、**①力のあるアクセラレーターの存在の重要性**が示唆される<sup>11</sup>。また、主体間の相互作用を活性化させる仕組みや文化をどれだけ醸成させることができるかが重要であることから、**②District Hallのような交流機能の役割**も大きいだろう。

コンパクトなエリアでの複合的な開発と様々な主体の集積と相互作用を特徴とする、イノベーション地区のコンセプトは、都心部強化事業から文化芸術創造都市事業まで含めて、都心臨海部における、横浜市のこれまでの都市政策及び事業と同じベクトルにあると解釈でき、都心臨海部のこれまでの発展は、サウス・ボストン・ウォーターフロントの4つのビジョンとも親和的に見える。

- ① 特定の産業ではなく、あらゆる種類の産業に開かれた地区（ボストン）  
⇨都心臨海部への多様な企業やクリエイティブな人材の集積（横浜）
- ② 「仕事、生活、遊び」をモットーに、イノベティブな起業家の集積（ボストン）  
⇨職住近接やエンターテイメント・自然との近接性を兼ね備えた立地と開発（横浜）

<sup>10</sup> オープンイノベーション・ベンチャー創造協議会（JOIC）（2018）「オープンイノベーション白書第二版」

<sup>11</sup> 例えば、ロンドンの、Techstars、ベルリンの Axel Springer Plug and Play Accelerator

- ③ 確定的な計画ではなく、柔軟で実験的な試み（ボストン）  
⇒創造都市施策など横浜市の実験的な事業形成の気風<sup>12</sup>（横浜）
- ④ 大学や研究機関ではなく、市主導によるイノベーション地区形成（ボストン）  
⇒横浜市のイニシアティブと関係主体と連携した都市開発と発展の歴史（横浜）

サウス・ボストン・ウォーターフロントと横浜市都心臨海部との類似点や都心臨海部のポテンシャルを踏まえると、**力のあるアクセラレーターの誘致やイノベーションを促進するためのコミュニティスペースや機能強化といったサウス・ボストン・ウォーターフロントの経験**は、今後の横浜市の都市政策・経済政策においても、参考になるだろう。

## (2) 課題

今回の調査では、必ずしも大学がイノベーション・ハブとなっているわけではないとされる「②再活性化型」に着目して事例調査を行ったが、サウス・ボストン・ウォーターフロントは、MITやハーバード大学に近接し、起業家育成に特化したハブソン大学のサテライトも誘致している。人材供給という点でやはり大学の役割は大きく、サウス・ボストン・ウォーターフロントにおいても成功要因の一つとされている。横浜におけるイノベーション地区の発展においても課題の一つとなるだろう。

また、イノベーション・ドライバーとされるスタートアップ企業の集積という点でも、開業率<sup>13</sup>、スタートアップ企業数<sup>14</sup>、大学発ベンチャー数、ベンチャーキャピタル投資規模<sup>15</sup>など、日米ではスタートアップを取り巻く環境に大きな違いがある。

イノベーション地区の成功事例にみられるような構成要素が、形だけ整っているだけで成功するわけではなく、このような要素決定論への警鐘が存在する<sup>16</sup>。そのうえで、「端的に何かを真似すれば良い、という訳ではない一方で、思考自体は参考にできるということになろう」という意見もある<sup>17</sup>。

先進事例の経験への理解を深めるとともに、サウス・ボストン・ウォーターフロントの事例だけでなく、イノベーション地区を構成する各要素が具体的にどのように機能しているか、今後の調査課題としたい。

<sup>12</sup> BankART1929「創造都市横浜のこれまでとこれから Part2」で、創造都市の実験的な姿勢への評価が指摘されている。

<sup>13</sup> 開業率：日本 5.6%（2016年）、米国 9.3%（2011年）（平成30年度中小企業白書）

<sup>14</sup> 2018年11月時点スタートアップ企業数：横浜市 267社（entrepedia）、ニューヨーク市 13,730社（DIGITAL NYC）

<sup>15</sup> 2017年VC投資額：日本 1976億円、約18億USドル（110円換算）（一般財団法人ベンチャーエンタープライズセンター）、米国約840億USドル（PitchBook-NVCA Venture Monitor）

<sup>16</sup> 孫引きとなってしまうが、みずほ産業調査（2014）「米国の競争力の源泉を探る」において、オースティンのクラスター形成のプロセスを仔細に検討した福嶋（2013）は、「現行の政策では、シリコンバレーなど成功したクラスターの事例研究から得た『成功要因』を特定し、日本に不足している『成功要因』を整備さえすれば成功する、という素朴な要素決定論が横行している。」と警鐘を鳴らしている。とある。

<sup>17</sup> みずほ産業調査（2014）「米国の競争力の源泉を探る」

**本レポートにおける主な参考文献**

(イノベーション地区について)

- ・ Katz, Bruce and Wagner, Julie (2014) “The Rise of Innovation Districts: A New Geography of Innovation in America”

(イノベーション地区の成功要因について)

- ・ Baily, Martin Neil and Montalbano, Nicholas (2017) “Clusters and Innovation Districts: Lessons from the United States Experience” THE BROOKINGS INSTITUTION

(イノベーション地区の比較について)

- ・ Greenwood, Joe and van den Steenhoven, Joeri “THE RISE OF THE HUB” MaRS

(サウス・ボストン・ウォーターフロントについて)

- ・ THE INTERSECTOR PROJECT “The Development of Boston’s Innovation District: A Case Study of Cross-Sector Collaboration and Public Entrepreneurship”

※ 本レポートの内容に関して、その有用性、正確性、知的財産権の不侵害等の一切について、執筆者及び執筆者が所属する組織がいかなる保証をするものではなく、読者が本レポート内の情報の利用によって損害を被った場合も、執筆者及び執筆者が所属する組織がいかなる責任を負うものではありません。また、本レポート中の意見・見解は、執筆者個人の意見・見解であり、所属する組織の公式見解を表すレポートではありません。